

教育に関する たけまる ワークショップ 実施報告書



平成28年1月
生駒市

目次

I 開催概要.....	1
II 参加者意見のまとめ.....	2
III 各回の配布資料及び記録.....	5
第1回	6
第2回	21

I 開催概要

【趣旨】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、今後の教育行政の根幹となる方針（教育大綱）の策定を進めるにあたり、市民の意見を反映させるため、「社会で生き抜く人を育てる教育のあり方について」をテーマとするワークショップを実施した。

【参加者】 公募

【各回の概要】

第1回

日時 : 平成27年10月25日(日) 9時30分～12時

場所 : 生駒市コミュニティセンター4階 402-403

参加者 : 28名

[内容]

- コーディネーターからのアドバイス
- グループ討議 「社会で生き抜く力」について考える
「良いね」と思う人(こんな人になりたい/こんな人でありたい)はどんな人?
「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと?
- グループ発表
- コーディネーターからのコメント

第2回

日時 : 平成27年11月7日(土) 9時30分～12時

場所 : 市役所4階 大会議室

参加者 : 27名

[内容]

- コーディネーターからのアドバイス
- グループ討議 「生駒市の教育のあり方」について考える
生駒の未来予想～10年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか?～
生駒市民(いこまびと)を目指して、どう学び合えばよいのか、どう学ばせるか?
 - ・どのようなことを学ぶべきか・身につけるべきか?
 - ・どのような場面(場所)、どのような手段・方法で学ぶべきか?
- グループ発表
- コーディネーターからのコメント

【総合コーディネーター】 小柳和喜雄 奈良教育大学教授

【オブザーバー】 市長、副市長、教育長、教育関係者

【ファシリテーター】 アルパック(株) 地域計画建築研究所

Ⅱ 参加者意見のまとめ

●「良いね」と思う人（こんな人になりたい／こんな人でありたい）はどんな人？

やり抜く力 行動する人 積極性

「最後までやり抜く力を持つ人」「本気で努力することができる人」「すぐにめげない人」「課されたことを責任を持ってやり遂げる人」「実行力のある人」「失敗を恐れず積極的に行動する人」「好奇心をいろいろなことに持てる人」「視野を広げる人」「いろいろな目線で物事を考えられる人」「フットワークが軽い人」「学びを行動に移す人」「まず自分が行動する人」

輝く人 発信力 自己研鑽 自己肯定感 前向き

「あこがれられる人」「子どもたちの良い見本となれる人」「笑顔がすてきな人」「自信を持っている人」「熱い人」「焦らない人」「夢を持っている人」「失敗を学習意欲に変える人」「自尊感情が豊かな人」「目標を持つ人」「自分のことを好きな人」「まわりの人は良い人であると思える人」「未来は明るいと思える人」「生きることが楽しいと思える人」「笑顔の力を知っている人」「将来を担っている自覚を持っている人」「学ぶ喜びを知っている人」

自分で考えて行動できる人 自覚 自分の意見を伝える人 判断力

「自己責任の下で生きられる人」「自分の意見をはっきりとすることができる人」「意見を自らの言葉で伝えられる人」「的確な判断ができる人」「どんな状況でも、どんな場所でも同じ対応ができる人」「足るを知る」「情報過多の中で処理する能力のある人」「正誤をしっかりと判断できる人」「どうしたら…を考えられる人」「自分が何をしたいのかを知る人」

広い心を持っている人 寛容な人 互いに認め合える人 柔軟性

人の意見を聴く人

「他人の意見を受け入れられる人」「相手の意見を聴いて受け止められる人」「素直に人の話を聞ける人」「人の気持ちを理解した上で人と接することのできる人」

コミュニケーションがしっかりできる人 あいさつできる人

「あいさつのできる人」「あいさつの後何か会話ができる人」「周りの意見を聞き、それをまとめるリーダー的存在感のある人」「協調性のある人」「こまやかな気遣いができる人」「地域（コミュニティ）のつながりを大切にできる人」「積極的に友だちと交わって学ぶ人」「自分に固執せずに柔軟な心を持つ人」

愛情のある人 思いやり 感謝 家族力

「人に優しい人」「多少でも人の役に立つ人」「思いやりを持ち、行動に移す人」「少数派の意見を受け止める人」「損得関係なく人のために人のことを思って活動する人」「相手の気持ちをわかる人」「力になろうとする人」「思いやりを行動に移すことができる人」「節度のある人」

健康な人(体も心も)

「健康で日々を送る（人に迷惑をかけない）人」「心身ともに健康でいられる人」

生駒を愛する人

「地域活動に積極的に取り組む人」「生駒の魅力を伝えられる人」

●「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと？

一緒に成長、一緒につくる

「生駒 × あなた = ∞（無限大）」

自然
利便性
教育

動力、好奇心、夢、生きる力、
思いやり、生き生きと暮らせる、
ふれあい、...

「共に未来に輝く生駒民」

「共感・共育・共働」

「生駒らぶ！地域で育む“いこまっこ”」

情報化社会の進展

- ・情報技術の発展、日常生活がすべて IT 中心、機械的、数字的
- ・IT 危機を使いこなせる子どもたち、ゲームやスマホなどを使う子どもの増加
- ・バーチャル世界の発達、学校教育での活用

●その影響は…

新たな展開	「新しい技術から新しい職が生まれる」「生駒に大学（専門学校）ができる」
便利になる	「自宅で仕事ができる」「サテライトオフィス」「家事負担の減少」「市役所へ手続きに行かなくてもよい」「買い物に行かなくてよい」「職住一体で子育て環境が良くなる」
コミュニケーションが減少	「会話によるコミュニケーションが少なくなる」「感情を出さない、出せない、出し方がわからない」「非常識な人が増える」「応用がきかない人が増える」
その他	「本を読む子どもが少なくなる」「美しい日本語で話せる人が減る」「子どもがさらに運動しなくなる」

高齢化・人口減少

- ・生駒市の北と南の人口が減っている、空き家が増えている
- ・高齢者が中心のまち
- ・人口減少、子どもが少なくなっている

●その影響は…

人生を楽しむ	「仕事を辞めた人などが楽しく暮らせる」「生駒生まれ生駒育ちの人が住み続ける」
福祉サービスの増加	「介護等のサービス事業につく人が増える」「福祉施設、介護系のサービス事業者が増える」
地域コミュニティの衰退	「地域のつながりが減ってしまっている」「今の地域コミュニティ（自治会など）の区割りが変わっている」「市内で人口の格差が生まれている（過疎地区ができている）」

家族の形の変化

- ・シングル家庭が増加、個と孤が強まる
- ・男女の差異が縮まる、生駒市内で働く人がさらに減っている

●その影響は…

教育の変化	「教育に対する意識がより高まる」「他地域で働く人や他地域で学ぶ子どもが増える」
婚活	「婚活イベントが増えている？」

その他

国際化・グローバル化の進展	「国際生駒」「世界にはばたく生駒」「グローバル化が今より進展する」「学校でも外国人が増えている、文化の多様性が生まれる」
都市化の進展	「都市化が進む（自然が減る）」「子どもが外で遊ぶ場所がなくなる」「新しい住宅地が開発され人口が増えている」「子育て世代は大阪や奈良から移住してくる」
産業の変化	「農業をする人がいなくなっていく」「地元の産業を継ぐ人口が減少している」
子どもの環境の変化	「勉強以外の学びの場が少なくなっている」「塾で忙しく、子どもの放課後がなくなっている」
教育の環境の変化	「高校教育の細分化の傾向が強くなっている」

10年後も守り抜きたいもの

- ・生駒の自然は守っていききたい、何もしなければ無くなってしまう
- ・旧集落に残る伝統行事は守っていききたい
- ・豊かな空気、ゆったり流れる時間などを守っていききたい

望ましい10年後の生駒

「30年後帰ってこられる生駒」

- ・大阪のベッドタウンとして生駒で育った人がリターンするまち

●具体的には…

「子育てがし易い生駒」

- ・ゆっくりと子育てができるまち
- ・子どもと大人の関わりがうまく進んでいるまち
- ・お年寄りが見守るまち

「地域のカ・町の人々の力を高めていこうとする生駒」

- ・子どもに体験を伝えられる（伝えられる知識がある人が住むまち）
- ・色々な体験ができる生駒
- ・歴史遺産の情報発信ができていくまち
- ・観光都市（外人さんがもっと多く住んでいるまち）
- ・奈良・生駒の魅力が伝えられる人
- ・生駒の文化や古き良き場所・物をつたえていく人が増えているまち

●生駒市民（いこまびと）を目指して、どう学び合えば良いのか、どう学ばせるか？

生駒市民（いこまびと）になるためにどのようなことを学ぶべきか・身につけるべきか？

がまん・自信・やりきる力

「がまんすることを身につける」
「自信を身につける」「最後までやり切ることを学ぶ」

幅広い知識・グローバリズム

「自分の知らない広い世界を知る」「多くの情報を得る」「普段できないこと、知る機会のないこと（地域の風習、他の家庭の子育て、田舎の暮らしなど）」
「グローバルな視点で世界を知る」「日本の生駒の立ち位置を知る」
「英語を学ぶことが必要」「英語だけでなく様々な国の言葉を学ぶ」

創造性

「新しい発見」「自分にはないもの」
「創造力を学ぶ」

倫理観・人権

「まずは人権から」「いろんな人を受け入れ尊重する」
「正悪の判断ができる」「規範意識」

あいさつ・コミュニケーション

「学校＋地域であいさつ」「“あいさつ＋α”」「あいさつの後に何か声をかける」
「コミュニケーションの仕方」

やさしさ・思いやり

「やさしさ、思いやりの心を育む」
「愛情（命の大切さ）」

その他

「社会の仕組みやお金の教育」
「自然の力を知る」
「今あるものの大切さに気づく」
「まちの良さを伝えるちから」
「食育の大切さ」「体の使い方」「体力をつける（考える力）」

どのような場面（場所）、どのような手段・方法で学ぶべきか？

地域社会での学び

「地域の専門的な知識を持った人を学校に呼ぶ」「地域の埋もれた人材を発掘、紹介する人材バンク」「脱・教室：まちに出て、実際に活躍している人に触れる（地域のことを知れるプログラム）」「スクールボランティアの活躍できる場を広げる（シルバー世代が実力を発揮する場）」
「学校では学べないことを学ぶ地域の学び場」「放課後子ども教室」「いろんな子どもの居場所」
「学校 PTA とか生徒会活動への参加」「学校教育と社会教育の連携」「PTA がつなぎ役となり、学校と地域が連携する」
「広く地域の人たちが学べる場をつくる」「大人がお手本を見せられるように大人の勉強会をする」「コミュニティカレッジ」「まちゼミの実施（大人の職業体験）」
「家ゼミの実施（他の市民の家に泊まり、暮らし方を知る）」「お年寄りの家にホームステイ（集落の暮らしや農作業を学ぶなど）」「修学旅行で民泊」

地域活動への参加

「地域社会の活動に積極的に関わる」「桜を守る運動を地域の親子でやっているが交流（テテ、ヨコ）になる」「森を守る会に子供が来てくれて色々体験している」
「地域の祭りに参加する」「芋掘りなど普段しないことに参加する」「交換留学など異文化を知る体験をつくる」「地域で子どもを見守る」

多様な交流

「異世代が共に生き、共に学べる」「高齢者から学ぶ機会を増やす」「他世代、多世代から学ぶ機会を持つ」「他人と関わること」
「色々な人が活動に関われるようにする」「仕事の多様性を認め合うことで、協力しやすくする」「参加の仕方の多様性を認めることで、参加しやすくする」「職場体験の推進」「HR に職業体験（リタイア世代がプロ意識を持って教える）」

経験すること

「なんでも経験していくことが必要」「経験する機会を増やす」「経験している中で、物事に取り組む姿勢を学ぶ」「体験が全て勉強になる」
「失敗はないと思ってやってみる」「外に出る機会を増やす」「考えてやってみる」

その他

「乳幼児期に親はしっかり愛情を注ぐ」「他の家庭の子育てなどを知る機会を持つ」
「学校での選択授業で興味を持てるものを探す」「読書が好きな子どもを育てる環境をつくる」
「土と親しむ機会を多く持つ」

Ⅲ 各回の配布資料及び記録

第1回

配布資料（次第、ふりかえりシート）
記録

第2回

配布資料（次第、ふりかえりシート）
記録

第1回

たけまるワークショップ 第1回

次 第

日 時：平成 27 年 10 月 25 日（日）

9 時 30 分～12 時

場 所：生駒市コミュニティセンター 4 階
402、403、404 会議室

1 開 会

- ・あいさつ／趣旨説明など

2 ワークショップの進め方

3 コーディネーター（小柳 和喜雄教授：奈良教育大学）からのアドバイス

4 グループ討議

- ・意見交換①
（他のグループで出た意見のチェック）
- ・意見交換②
- ・キャッチフレーズの検討

5 グループ発表

6 コーディネーターからのコメント

7 閉 会

たけまるワークショップ（第1回） ふりかえりシート

問1 本日のワークショップはいかがでしたか？

- A. 良かった
- B. ふつう
- C. よくなかった（その理由は？）

問2 他の人の発言の中で心に残った事があればお書きください。

問3 会議の場で言い残した事／言い足りなかった事があればお書きください。

お名前 _____

※差支え無ければご記入ください。

たけまるワークショップ 第1回 記録

平成27年10月25日(日)、生駒市コミュニティセンターにおいて、教育に関する「たけまるワークショップ」を開催しました。

第1回の今回は、グループに分かれ、「社会で生き抜く力とは」をテーマに、「良いね!」と思う人(こんな人になりたい/こんな人でありたい)はどんな人か意見を出し合い、その後目指すべき人のキャッチフレーズを考えました。



【プログラム】

- 1 開会
- 2 ワークショップの進め方
- 3 コーディネーター(小柳和喜雄教授:奈良教育大学)からのアドバイス
- 4 グループ討議
- 5 グループ発表
- 6 コーディネーターからのコメント
- 7 閉会

1 開会

開会にあたり、小紫市長による挨拶がありました。



生駒市では初めての教育に関するワークショップになります。生駒市は教育に力を入れていきたいと考えており、このワークショップは生駒市の特色ある取組となります。

各市町村では教育大綱というものを定めていますが、今回皆さんからいろんな意見をいただき、教育大綱を作っていく上での参考にしたいと思っています。

ワークショップは計2回行いますが、1回目は社会で生き抜く人材について、そういった人材はどのような人かというお考えを、それぞれの視点で出していきたいと思えます。

また、これから社会の動きが激しくなる中で、どういう人材が活躍できるかということは今と違ってくると思えますので、そういったことも頭に置きながらお考えいただければと思います。よろしくお願いいたします。

2 ワークショップの進め方

ファシリテーターから進め方の説明をしました。

3 コーディネーターからのアドバイス

奈良教育大学の小柳先生から、意見交換にあたってアドバイスをいただきました。

これから皆さんには、社会を生き抜く人材について意見を出していただきます。

1回目ということで、今日はいろんなアイデアを出していただきたいと思います。その際に、意見の出し方として「私が」こうなりたい」というように1人称での考え方と、「子どもに」こうなってほしい」という3人称での考え方があると思います。3人称の方が考えやすいかもしれませんが、両方の視点でご意見いただきたいと思います。



4 グループ討議

各グループに分かれて、意見交換を行いました。

1 班のグループ討議の概要

●「良いね」と思う人（こんな人になりたい／こんな人でありたい）はどんな人？

自分たち

- ・自分たちがどんな大人でありたいか、なりたいかを考えました。

《自覚》

「自己責任の下で生きられる人」「自分の意見をはっきりとすることができる人」「自分の意見が言える人」「意見を自らの言葉で伝えられる人」「上手に怒る（叱る）ことができる人」「的確な判断ができる人」「どんな状況でも、どんな場所でも同じ対応ができる人」「達成できる人」

《積極性》

「将来的な未来を見られる人」「何事にも積極的に取り組む人」「好奇心をいろいろなことに持てる人」「狭い日本、閉じた日本を脱出してさらに視野を広げる人」「いろいろな目線で物事を考えられる人」「フットワークが軽い人」「できるだけ外に出て多くの方々、年代世代を問わず会話する人」

《柔軟性》

「他人の意見を受けいれられる人」

《思いやり》

「人に優しい人」「多少でも人の役に立つ人」「周りの人が望むことを先回りして行動できる人」「困っている人に気づける人」「母親、父親の目の届かない細かい点を孫の世代に優しく伝える人」「これまでの経験を生かしてたとえ老々支援でもお役に立つ人」「若い母親を何らかの形で支援する人」

《家族力》

「家族・家庭を大切に思える人」「教育の基本は家庭にあると思える人」

《発信力》

「あこがれられる人」「子どもたちの良い見本となれる人」「子どもが胸を張って『尊敬できる人は両親』と言える人」「笑顔がすてきな人」

《自己研鑽》

「字がきれいな人」「スケジュールがきちんと立てられる人」「熱い人」「焦らない人」

《健康》

「健康で日々を送る（人に迷惑をかけない）人」

子どもたち

・子どもたちにどんな人になってほしいかを考えました。

《前向き》

「まわり的人是な良い人であると思える人」「未来は明るいと思える人」「生きることが楽しいと思える人」「笑顔の力を知っている人」、「将来を担っている自覚を持っている人」「学ぶ喜びを知っている人」

《思いやり》

「損得関係ない人のために動ける人」「思いやりがある人」「相手の気持ちをわかる人」

《判断力》

「情報過多の中で処理する能力のある人」「正誤をしっかりと判断できる人」「どうしたら…を考えられる人」

《自覚》

「自分が何をしたいのかを知る人」「はっきりと自分の意見を言える人」「自分の意見をしっかりと言える（持つ）人」

《感謝》

「ありがとうと言える人」「感謝ができる人」

《コミュニケーション》

「積極的に友だちと交わって学ぶ人」「自分に固執せずに柔軟な心を持つ人」「あいさつができる人」「コミュニケーション能力をもっている人」、「両親としっかりと会話する人」

《やり抜く力》

「最初から無理と言わない人」「最後までやり抜く力を持つ人」「くじけずにやり通す精神力のある人」「本気で頑張ることを恥じない人」「本気で努力することができる人」「怒られてもすぐにめげない人」

●「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと？

生駒はどんなまち？

・まず、生駒はどんなまちかなのか考えました。

《大阪に近い》「生駒は大阪府」「大阪へのアクセスが良い」「大都市に近く文化的な施設にも出ていくことができる」

《自然》「自然に恵まれ空気もいい、水もおいしい」「生駒山が近くにある」「自然があり静かな環境」「子どもたちをのびのび育てられる環境」「自然と街がうまく調和されている」

「自然が近い」「豊かな自然がまだ残っている」
 《新住民》「生駒市出身の人が少ない」
 《生活水準》「余裕がある」「生活水準が高い」「誇りをもてる」「日常生活をよくしようと考える人が多い」「子育てがしやすいとお母さんたちからの声」、「おしゃれなクラス感」
 《教育》「素直で良い子どもが多い」「教育水準が高い」「図書環境がかなり整っている」
 《発展途上》「生駒ってコレというものが薄い」「まだまだ発展途上」



・生駒の環境と個人の個性を掛け合わせ、無限大の可能性を目指して一緒に成長、一緒につくっていくことが大切というまとめになりました。

一緒に成長、一緒につくる

生駒 × あなた = ∞ (無限大)

自然
 利便性
 教育

動力、好奇心、夢、生きる力、
 思いやり、生き生きと暮らせる、
 ふれあい、...

2 班のグループ討議の概要

●「良いね」と思う人（こんな人になりたい／こんな人でありたい）はどんな人？

《輝く人》

自分：「やりたいことに邁進している人」「自分の思いを表現できる人」「自分に自信を持っている人」「輝けるフィールドを持っている人」「楽しく生きられる人」「時間と心のゆとりを持っている人」など

子ども：「やりたいことに邁進している人／何かに一生懸命取り組むことができる人」「自分の思いを表現できる人」「自分の得意なことが分かる人」など

⇒“輝く人”とは、「自分のやりたいことをはっきりと持ち、その目標に向かって頑張っている人」や「その頑張る過程を通して、自分に自信を持っている人／他の人には負けないという自分のフィールドを確立している人」といった整理になりました。

《広い心を持っている人・寛容な人・互いに認め合うことができる人》

自分：「人の助けになれる人」「思いやりの心を持っている人」「貢献できる人」「人から頼りにされる人」「家族単位ではなく、地域単位での行動ができる人」「環境（地域、人）との交流を大切にできる人」「会話（声がけ）ができる人」「地域、世界とのつながりを知る人」など

子ども：「地域に感謝ができる人」「人の気持ちが分かる（友達を大切にできる）人」「相手の良いところを見つけられる人」「人とコミュニケーションができる人」「多様な価値観を持っている人」「何事にも寛容な人」など

⇒ “広い心を持っている人・寛容な人・互いに認め合うことができる人”とは、「人を思いやる心を持ち、相手からも思ってもらえる（頼りにされる）人」「考え方や意見などが違って、それを多様な価値観として受け入れることができる人／寛容な心を持った人」といった整理になりました。

《自分で考えて行動できる人》

自分：「アンテナのたくさんある人」「進んで発信できる人」「もっと論理的・批判的な思考が可能な人」

子ども：「いろんなこと興味を持てる人／何事にも興味を持ちチャレンジできる人」「正しい情報を得る事が出来る人」「自らの考えで行動できる人」など

⇒ “自分で考えて行動できる人”とは、「いろいろな事に興味を持ちチャレンジする気持ちがある人」「様々な情報があふれる中であって、自分で正しい情報を得て、判断し、それを行動にうつせる人」といった整理になりました。

《健康な人（体も心も）》

自分：「健康に過ごすことができる人（身体も心も）」「明るく前向きにいつも笑顔で、物事を良い方向に考えられる人」

子ども：「心身ともに健康な人」「体が弱っていても健やかに自分らしく暮らせる人」

⇒ “健康な人（体も心も）”とは、「単に体力があるという意味ではなく、いつどんな時も前向きに頑張ることができる、心身ともに健康でいられる人」といった整理になりました。

●「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと？

本日は時間が無く、フレーズを決めるに至らなかったが、「良いね」と思う人をイメージしながら、必要と考えるキーワード出しを行いました。

《出てきたキーワード》

- ◎ぬくもり
- ◎支え合える／調和
- ◎輝く人／キラキラ／いきいき（生き生き・生き生き）
- ◎変化に対応できる／順応力

●その他に出てきた意見

- ・生駒を世界に発信していきたい（そんな人間が育ってほしい）
- ・得た能力を生駒で活かしてくれる人になってほしいし、生駒で頑張りたいと思える“生駒”であってほしい。
- ・いつまでも「ほっとできる」「ぬくもり」を感じることができる生駒であってほしい。
- ・人を育てる（教育）ことはまちが目指す方向と関連してくる。（ひとづくりはまちづくり）

3班のグループ討議の概要

●「良いね」と思う人（こんな人になりたい／こんな人でありたい）はどんな人？

自分たち

- ・自分たちがどんな大人でありたいか、なりたいかを考えました。

《思いやりのある人》

「思いやりを持ち、行動に移す人」「少数派の人がどうすれば生きていけるのか考える人」

「少数派の意見を受け止める人」「損得関係なく人のために人のことを思って活動する人」

《あいさつのできる人》

「あいさつのできる人」「ただあいさつするだけではなく、その後何か会話ができる人」

《コミュニケーションがしっかりできる人》

「周りの意見を聞き、それをまとめるリーダー的存在感のある人」「協調性のある人」「こまやかな気遣いができる人」「地域（コミュニティ）のつながりを大切にする人」

《自己研鑽》

「あこがられる人」「自信を持っている人」

《行動する人》

「学びを行動に移す人」「まず自分が行動する人」

《その他》

「足るを知る」

子どもたち

- ・子どもたちにどんな人になってほしいかを考えました。

《思いやりのある人》

「困っている人に『どうしたの？』と聞ける人」「力になろうとする人」「思いやりを行動に移すことができる人」「節度のある人」

《あいさつのできる人》

「あいさつのできる人」

《行動する人》

「課されたことを責任を持ってやり遂げる人」「実行力のある人」「努力をする人」「失敗を恐れず積極的に行動する人」

《人の意見を聴く人》

「相手の意見を聴いて受け止められる人」「素直に人の話を聞ける人」「人の気持ちを理解した上で人と接することのできる人」

《自分の意見を伝える人》

「自分の考えを人に伝えることのできる人」

《自己肯定感》

「夢を持っている人」「失敗を学習意欲に変える人」「自尊感情が豊かな人」「目標を持つ人」「自分のことを好きな人」

●「良いね」と思う人＝生駒市民（いこまびと）になるためにどうすればよいか

- ・「良いね」と思う人を考える中で、どうしたらそういう人になれるか、ということにも意見が出ました。

◎みんなで育てる場をつくる

- ・子どもは失敗することを怖がる。ただ間違っているというだけではなく、周りの大人がきちんとコメントすることが大事。
- ・集団の中で何かをするという経験の中でリーダーシップや責任感が出てくる。子どもたちがコミュニケーションをとれるような場をつくることが大事。

◎まず自分が行動する

- ・まずは自分が行動する。いくら言葉を並べても意味がない。行動に移してみてこそ共感を持ってもらえ、一緒にやってもらえる人が出てくる。

●「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと？

- ・行動に移すことが重要であり、共感し、共に育つことが共に行動することにつながっていくというまとめになりました。

「共感・共育・共働」

4 班のグループ討議の概要

●「良いね」と思う人（こんな人になりたい／こんな人でありたい）はどんな人？

《社会の変化に対応できる人》

- 自分：「柔軟な心と頭を持てる人」「成長できる人」「生涯学習をいつまでも続けられる人」
「情報を仕入れて先を見通す力のある人」「得た情報を活用できる人」「広い視野や国際理解のある人」「チャレンジできる前向きな人」など
- 子ども：「違いを受け入れ認め合える人」「判断力のある人」「真の学力／心・体・頭のバランスがとれた人」「『がまん』できる人」「臨機応変に対応ができる人／問題解決ができるくじけない人」など

“社会の変化に対応できる人” になるために大事なこと

- ・我慢することの大切さやけじめの大切さを学べること
- ・失敗しても恐れずチャレンジする経験（失敗を成功に導いた経験／逆境）
- ・一人ひとりの子どもを大切にみつかること⇒自尊心を高める
- ・自己肯定（セルフエステーム）
- ・様々な職種を知る機会（インターンシップ）

《コミュニケーションがしっかりできる人》

- 自分：「子どもたちに経験・体験を伝えられる人」「心穏やかで感受性が豊かな人」「毎日、笑顔で明るくて元気な人」など

子ども：「他人の気持ちがわかる人」「国際対応ができる人」「協調性のある人」「挨拶ができて笑顔が絶えない人」「何事にも寛容な人」など

“コミュニケーションがしっかりできる人”になるために大事なこと

- ・英語に興味を持つこと
- ・自分の意見を言える場
- ・親子の会話
- ・国際社会の情勢を学ぶ機会

《愛情のある人》

自分：「(自身の母親のように)優しく温かく子どものしたいことを一歩下がり見守ってくれるような人」「明るく前向きにいつも笑顔で、物事を良い方向に考えられる人」
子ども：「人の痛みを分かり合え、何かしようと考えられる人」「動植物も愛せる人」

“愛情のある人”になるために大事なこと

- ・他人を思いやる気持ち
- ・動植物を育てる大切さを学ぶ機会

《生駒を愛する人》

自分：「地域活動に積極的に取り組む人」など
子ども：「生駒の魅力を伝えられる人」など

“生駒を愛する人”になるために大事なこと

- ・郷土愛を育む地域学習
- ・文化歴史を知る教育

●「良いね」と思う人＝生駒市民（いこまびと）に共通して必要なもの

◎生駒市民（いこまびと）が育つのに必要なもの…《地域で学べる環境》

- ・地域の大人みんなで子どもを育てること
- ・リーダーとして地域活動を知る経験／積極的な地域行事への参加
- ・地域での挨拶活動
- ・多世代交流／リタイアされた方と交流できる場／幅広い世代と一緒に遊べる場（昔遊びデイ）
- ・家族の愛情

◎生駒市民が生きる場所…《培ったスキルを地域に還元する場》

- ・豊富な経験を子どもたちに伝える場
- ・プロとして培った技能を地域に活かせる機会／インターンシップを通じた地元職業を体験する機会（生駒キッズワーク）

◎中間世代の役割

- ・地域活動のリーダー

- ・培ったスキルを地域に活かしたい高齢者と地域で学ぶべき子どもたちを繋ぐ

●「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと？

《出てきたキーワード》

- ・生駒らぶ！地域のなかで自ら育つ
- ・地域で育む「好き生駒」！
- ・いきいきと楽しく心ふれあう笑顔いっぱいの都市・生駒
- ・いこまっこは明るく元気で心が豊か！！
- ・自然 緑がいっぱいの”生駒”が好き
- ・親と子、地域と子、地域と親の会話



「生駒らぶ！地域で育む“いこまっこ”」

5 グループ発表

各グループで話し合った内容を発表しました。

6 コーディネーターからのコメント

小柳先生から、最後にコメントをいただきました。

それぞれのグループから出ていた意見を「対コト・モノ」・「対ヒト」・「対自」で整理しました。「対コト・モノ」は、もっとこういう事柄を知っておいた方がよいといったこと、「対ヒト」はヒトとのコミュニケーション、「対自」は自分をどう磨いていくかといったことです。それを更に時系列で整理しました。

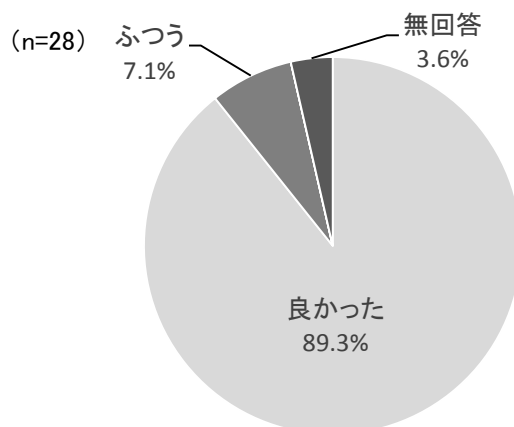
1班は今～未来と少し遠い未来（20～30年後）にかけてのこと、2班はまんべんなく意見が出ていて、3班は「対ヒト」・「対自」の意見が多かったのが特徴です。4班は未来（20～30年後）のことが多かったと思います。「対ヒト」・「対自」を皆さん大切にしているようでしたが、生駒でどうしていくかということを見ると、生駒を知ることなど「対コト」が多くなるかもしれません。

また、誰がそれに関わり、どういう仕掛けを作っていけばいいのかという話も出ていました。次回はそれを考えていただきたいと思います。今回は皆さんあまり時間軸を意識していなかったと思いますが、自分たちが描いたのが何十年後かを意識し、未来の社会を見据えて考えていっていただければと思います。

ふりかえりシート

ワークショップ終了後、参加者の皆さんにふり返しシートを記入いただきました。

◇本日のワークショップはいかがでしたか？



◇他の人の発言の中で心に残った事があればお書きください。

- ・意見を伝えるよりも前提として聞いてくれる、受け止めてくれる集団がないことが問題だということ。確かに教室に居場所がないということは、自分という存在を受け止められる集団がないということである。意見を伝えるより、相手を受け入れ、尊重する姿勢を養っていくべきだと感じた。また、学校教育と社会教育の視点から教育を深める事ができた。
- ・「あいさつ」一言だけでなく、もう一声をプラスする。人の意見を「聴く」。聞くではない
- ・「足るを知る」という言葉を初めて聞きましたが、とてもいい言葉だと思います。物が多くあふれている時代にシンプルな生活をイメージし、余りを出さないくらしがいいと思います。
- ・じっくり振り返る事が出来、子どもを大事に大切にいつくしんで育てる事が出来る機会。生駒市にするには子どもがついてくる仕組みを大人が小さいことから「しくみ」を作りたいと思う。人を育てる事が大事。相手の身になることが出来る人に気配りの出来る人に。キャッチフレーズ「共感・教育・共働」
- ・理念をいくらきれいな言葉で言っても(作っても)共感が得られないと人は動かない。
- ・体制を作るまえに、しっかりと仕組みを作る。何かを成すにはまず「人」から。将来「個」の時代になるので「集団」としての(中での)あり方が重要になる。
- ・同じような意見を持っておられることが判りました。特に3班の方の内容が良かったと思います。
- ・キャッチフレーズ「共感・教育・共働」が大変よかったです。様々な立場、環境の方の意見を聞くことができて勉強になりました。
- ・自主的に積極的に参加された方の集まりだけあって一人ひとりそれぞれの方の意見に想いが込められていて、心に残りました。他班で挙げられたキャッチフレーズ「共感・教育・共働」「生駒×あなた=∞」も私の班のものと同様、すごくよく考えられているなあと思いました。
- ・地域に密着につながって生駒を支えてゆこうという話が刺激を受けて良かったです。とても勉強になりました。みなさんとたくさんの意見交換ができて、とても楽しかったです。
- ・現在子育て支援等の活動でいかに人をつなげていくかを悩んでいるのですが、同じ事を感じている

人もおられる事、又、実際に活動される方がおられる異世代の人と交流が出来、ご意見を知る事、良かったと思います。ありがとうございました。

- ・ワークショップの中では目的（概念論）と手段（ツール）の整理が十分自分の中でできないまま臨んだ点、反省が残ります。但し、子どもに対するしつけ、教育の大切さは十分他のメンバーに伝えられたと思います。
- ・当初きんちょうをしていましたが、自分が思っていた事と同じや違う意見がきけて参考になりました。日頃子育てで時間に追われているので立ち止まり普段思っていることに気づきもありました。
- ・「キッズニア生駒」的なものをつくろう。生駒×あなた=∞
- ・「教育」というのは子どもだけでなく、大人も育つということ。このワークショップを通じて自分も学ばせていただいています。未来に生駒のためにすばらしい子ども達に育ててほしいと思います。
- ・「生駒は住み良い場所」（子育て世代にとって）
- ・みんな生駒が好きと言うことが良く判った。輝く人になるため将来を考えることが大切と思った。人の考えが共通している部分が多い事に気付いた。
- ・感謝の心を持つこと。子供の頃若い頃は感謝の気持ちがうすかった。年令と共に今日自分のあるのは多くの人のおかげがあったからこそ。若い頃と今とでは感謝に深みが増したように思う。でもまだまだ不足している自分がいることに気づいた。
- ・世界に向けて発信するという視点がステキだな、と思いました。生駒から発信できると思うので。
- ・いろんな世代の意見が聞けて興味深かった。共通した考えが多かったが少しちがう視点からの意見もあり勉強になりました。
- ・自己表現をするためには、余裕がないといけない。余裕を持つためには、やるべき事を先に終わらせた状態でないといけないという言葉が印象的でした。自分も教育現場を見ていて、課題などに追われて一杯一杯だと自己表現までいけないと思うのでとても納得しました。
- ・みんな考えていることはそんなに変わらないと感じた。
- ・「輝く人」というキーワード。
- ・家族から作る教育
- ・色々な年代の人の話が聞くことができ良かった。親の立場からの意見などが新鮮だった。
- ・言葉は違えど思い感じていることは大きくは違いはないと思いました。生駒を良くしようと思う人たちがこれだけいるということが財産だと感じました。
- ・人にあこがられる人になるということ。

◇会議の場で言い残した事／言い足りなかった事があればお書きください。

- ・学びを行動に移すプロセスをどう構築するか
- ・特にないです
- ・本日参加し「生駒市民」として改めていろいろ考えました。みんなが「生駒市民」で良かったと思える一石になればよいなと思っています。
- ・国際化の時代に広く対応できる子どもを育てる。
- ・地域の方と学校をつなぐシステムをより充実していく必要があると感じました（学校ボランティアの充実、拡充）。放課後学習を地域の方々、学校でする。キャリア教育に携わってもらうなど、地域との連携が今後より一層重要になると思います。

- ・特にありません
- ・ありません。次回も楽しみです
- ・今回は同じメンバーでほりさげる事も良いと思いますが、違う方の意見もききたいのでシャッフルしてもいいかと思います。
- ・次回には時間軸を意識して臨みたいと思います。ありがとうございました。
- ・次回につなげていきたいと思います。
- ・生駒が今後進む方向。ベッドタウン(従来から)、IT 整備し企業呼び込む?、マルチカルチャ(多文化、多様な都市として生き残るか?)
- ・生駒を世界にという広い意味の言葉がでた。将来的には無理でも日本の中で輝ける生駒市であれば素晴らしいと思った。
- ・生駒の子どもたちが輝き、生き活きと生きることで20年後、30年後世界がどう変化しても生駒がみんなが輝けるのかな。と感じます、楽しみです。
- ・子どものセルフエスティームを高めることが大事だと思います。
- ・皆さんから代弁含めて出つくしました。
- ・具体的に意見を言うのは次回にします。

第2回

たけまるワークショップ 第2回

次 第

日 時：平成 27 年 11 月 7 日（日）

9 時 30 分～12 時

場 所：市役所 4 階 大会議室

1 開 会

- ・あいさつ

2 ワークショップの進め方

3 コーディネーター（小柳 和喜雄教授：奈良教育大学）からのアドバイス

4 グループ討議

・意見交換①

－生駒の未来予想～10年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか
（他のグループで出た意見のチェック）

・意見交換②

- －生駒市民（いこまびと）になるために、「私たち／こどもたち」は「どういったことを学ぶべきなのか？」また「身につけるべきなのか？」
- －それは「どういった場面（場所）、どういった手段・方法で学べるのか？」また、「学ぶべきなのか？」
- －そして、そのなかで私たちは（学校、保護者、地域）「どう関わっていくべきなのか？」
「何ができるのか？」

5 グループ発表

6 コーディネーターからのコメント

7 閉 会

たけまるワークショップ（第2回） ふりかえりシート

問1 本日のワークショップはいかがでしたか？

- A. 良かった
- B. ふつう
- C. よくなかった（その理由は？）

問2 他の人の発言の中で心に残った事があればお書きください。

問3 これからの生活のなかで心がけようと思った事などがあればお書きください。

問4 自由意見（今回のワークショップに参加しての感想など）

お名前 _____

※差支え無ければご記入ください。

たけまるワークショップ 第2回 記録

平成27年11月7日(土)、生駒市市役所において、教育に関する「たけまるワークショップ」を開催しました。

全2回のワークショップの最終回となる今回は、前回話し合った「生駒市民(いこまびと)」になるためには、何を、どのように学ぶべきか等について考えました。その際、生駒市が将来どのようなまちになっているのかを予想しながら考えました。



【プログラム】

- 1 開会
- 2 ワークショップの進め方
- 3 コーディネーター(小柳和喜雄教授:奈良教育大学)からのアドバイス
- 4 グループ討議
- 5 グループ発表
- 6 コーディネーターからのコメント
- 7 オブザーバー(上田信行教授:同志社女子大学)からのコメント
- 8 閉会

1 開会

開会にあたり、小紫市長による挨拶がありました。



本日もお集まりいただきありがとうございます。前回は皆さんにいろいろな意見を出していただき、すばらしい回になったと思います。

今回は、「生駒市民(いこまびと)」になるためには、どういう教育が必要になってくるのか、皆さんに意見を出していただきたいと思います。

このワークショップで話し合った内容を、教育大綱にも何らかの形で盛り込みたいと思っています。プレッシャーをかけるようですが、皆さんのアイデアが生駒市の教育に影響すると思いながら、楽しみながらお話いただきたいと思っています。よろしくお願いします。

2 ワークショップの進め方

ファシリテーターから進め方の説明をしました。

3 コーディネーターからのアドバイス

奈良教育大学の小柳先生から、意見交換にあたってアドバイスをいただきました。

前回は、皆さんに目指すべき人のいろんなイメージを浮かべてもらいました。その中で、全体的に、自分をどのように磨いていくかといった「対自分」に関する意見、人とのコミュニケーションといった「対ヒト」に関する意見が多く、「対コト・モノ」に関する意見が少なかったように思います。

今回は時間軸も少し意識しながら、10年後の未来を考えたとき、どういう力が求められ、私たち／子どもたちは何を学んでいくべきなのか、私たちは何ができるのか、絞込みながら具体化して行ってほしいと思います。

4 グループ討議

各グループに分かれて、意見交換を行いました。



1 班のグループ討議の概要

●生駒の未来予想～10年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか？～

- ・まず、10年後や20年後の将来、生駒市はどうなっているのか考えました。

《情報化社会》

- ・情報技術の発展、日常生活がすべてIT中心、対IT社会
- ・機械的、数字的
- ・IT危機を使いこなせる子どもたち、ゲームやスマホなどを使う子どもが増えている

●その影響は…

(新たな展開)

- ・新しい技術から新しい職が生まれる
- ・生駒に大学（専門学校）ができる
- ・生駒の人口が増大した世代から次の世代に変わっている

(便利になる)

- ・家事負担の減少
- ・ほとんどの作業が家庭でできる（市役所へ手続きに行かなくてもよい、買い物に行かなくてよい

(コミュニケーションが減少)

- ・会話によるコミュニケーションが少なくなる

- ・感情を出さない、出せない、出し方がわからない
- ・非常識な人が増える
- ・応用がきかない人が増える

(日本語が衰退する)

- ・本を読む子どもが少なくなる
- ・美しい日本語で話せる人が減る

(運動しなくなる)

- ・さらに運動しなくなった子どもと一緒にスポーツ

《高齢化・人口減少》

- ・生駒市の北と南の人口が減っている
- ・高齢者が中心のまち

●その影響は…

(人生を楽しむ)

- ・仕事を辞めた人などが楽しく暮らせるまち

(福祉サービスの増加)

- ・介護等のサービス事業につく人が増える
- ・福祉施設、介護系のサービス事業者が増える

(地域コミュニティの衰退)

- ・地域のつながりが減ってしまっている
- ・今の地域コミュニティ（自治会など）の区割りが変わっている

《家族の形の変化高》

- ・男女の差異が縮まる
- ・シングル家庭が増加
- ・個と孤が強まる
- ・生駒市内で働く世代がさらに減っている

●その影響は…

(教育の変化)

- ・教育に対する意識がより高まる
- ・他地域で働く人や他地域で学ぶ子どもが増える

(婚活)

- ・婚活イベントが増えている？

《その他の変化》

(グローバル化)

- ・外国人が増えている
- ・グローバル化が今より進展する社会
- ・英語教育の変化

(都市化)

- ・都市化が進む（自然が減る）

●生駒市民（いこまびと）を目指して、どう学び合えば良いのか、どう学ばせるか？

どういった場面（場所）、どういった手段・方法で学ぶべきなのか？

《親から子へ》

- ・乳幼児期に親はしっかり愛情を注ぐ

《実践》

- ・考えてやってみること

《学校での選択授業》

- ・興味を持てるものを探す

《地域社会での学び》

- ・地域の専門的な知識を持った人を学校に呼ぶ
- ・地域社会の活動に積極的に関わる
- ・学校 PTA とか生徒会活動への参加

《世代間の交流》

- ・異世代が共に生き、共に学べる
- ・高齢者から学ぶ機会を増やす
- ・他世代、多世代から学ぶ機会を持つ
- ・他人と関わること

《その他》

- ・読書が好きな子どもを育てる環境をつくる
- ・コミュニティカレッジ
- ・職場体験の推進
- ・土と親しむ機会を多く持つ

生駒市民（いこまびと）になるためにどういったことを学ぶ・身につけるべきか？

《情操面》

- ・やさしさ、思いやりの心を育む

《倫理観》

- ・正悪の判断ができる

《がまん・自信》

- ・学校やバイト先でたくさん怒られたりすることでがまんすることを身につける
- ・自信を身につける

《グローバルズム》

- ・自分の知らない広い世界を知る
- ・グローバルな視点で世界を知る、日本の生駒の立ち位置を知る
- ・多くの情報を得る

《創造性》

- ・新しい発見、自分にはないもの
- ・創造力を学ぶ

《社会の仕組み》

- ・社会の仕組みやお金の教育

《生きる手段》

- ・食育の大切さ
- ・体の使い方、体力をつける（考える力）

《その他》

- ・自然の力を知る
- ・今あるものの大切さに気づく

2 班のグループ討議の概要

●「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと？

- ・前回からの宿題となっていたキャッチコピーを始めに考えました。出てきたキーワードは
 - ◎輝く
 - ◎キラキラ
 - ◎多様性
 - ◎未来
 - ◎程よい田舎
 - ◎空気がゆっくり
 - ◎生駒民

でした。みんなで一歩ずつ未来を作っていくということが、2 班のキャッチコピーとなりました。

「共に未来に輝く生駒民」

●生駒の未来予想～10 年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか？～

- ・まず、10 年後や 20 年後の将来、生駒市はどうなっているのか考えました。

《環境の変化》

- ・外国の方が居住するなど文化の多様性が生まれる
- ・仕事の仕方が変わる、自宅で仕事できる環境になる
- ・ベッドタウンの生駒がサテライトオフィスになる
- ・職住一体となって、子育て環境が良くなっている

《人口の変化》

- ・生駒の環境が維持できてれば、人口の減少はあまりないのではないかな
- ・子育て世代は、大阪や奈良から結構移住してくる
- ・外国の人が大勢住むようになる
- ・生駒生まれ生駒育ちの人が住み続ける
- ・今も空き家があるが、今後もっと空き家が増えてくる
→人の入れ替わりが上手くいくようにしたい

《10年後も守り抜きたいもの》

- ・生駒の自然は守っていききたい、ほっといたら無くなってしまおう
- ・旧集落に残る伝統行事は守っていききたい
- ・豊かな空気、ゆったり流れる時間など

●生駒市民（いこまびと）を目指して、どう学び合えば良いのか、どう学ばせるか？

どういった場面（場所）、どういった手段・方法で学ぶべきなのか？

《経験すること》

- ・なんでも経験していくことが必要
- ・経験する機会を増やす
- ・経験している中で、物事に取り組む姿勢を学ぶ
- ・体験が全て勉強になる
- ・学校で勉強できないことを色々体験で学ぶ

《経験する機会を増やすために》

- ・色々な人が活動に関われるようにする
- ・仕事の多様性を認め合うことで、協力しやすくする
- ・参加の仕方の多様性を認めることで、参加しやすくする
- ・失敗はないと思ってやってみる
- ・外に出る機会を増やす

《地域活動に参加する》

- ・桜を守る運動を地域の親子でやっているが、交流(テテ、ヨコ)になる
- ・森を守る会に子供が来てくれて、色々体験している
- ・地域の祭りに参加する
- ・芋掘りなど普段しないことに参加する
- ・交換留学など異文化を知る体験をつくる
- ・地域で子どもを見守る

3班のグループ討議の概要

●生駒の未来予想～10年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか？～

- ・まず、10年後や20年後の将来、生駒市はどうなっているのか考えました。

《少子高齢化》

- ・高齢者が増えている
- ・人口減少
- ・子どもが少なくなっている
- ・子どもが少なくなっていると思うが、生駒市は子育てを PR しているから増えているかもしれない

《国際生駒》

- ・国際生駒
- ・世界にはばたく生駒
- ・学校でも外国人が増えている

《ネット社会》

- ・ネットが発達し、人との関わりが少なくなっている
- ・バーチャルの世界が発達し、学校教育にもいろいろ使われるようになっている

《あらゆることを経験する場の減少》

- ・今農業している方たちは高齢なので、今後自然豊かな地域が少なくなっていく
- ・勉強以外の学びの場が少なくなっている
- ・塾で忙しく、子どもの放課後がなくなっている
- ・高校教育の細分化の傾向が強くなっている

●生駒市民（いこまびと）を目指して、どう学び合えば良いのか、どう学ばせるか？

生駒市民（いこまびと）になるためにどういったことを学ぶ・身につけるべきか？

《語学》

- ・英語を学ぶことが必要
- ・学校でも外国人の子どもが増えているので、英語だけでなく様々な国の言葉を学び、いろいろな国の人と会話できるようになるとよい

《人権》

- ・まずは人権から
- ・いろんな人を受け入れ、尊重する

《あいさつ》

- ・学校+地域であいさつ
- ・“あいさつ+α”、あいさつの後に何か声をかける

《やりきる力》

- ・少し体験する、というのではなく、最後までやり切ることを学ぶ

どういった場面（場所）、どういった手段・方法で学ぶべきなのか？

- ・最初に教育における課題を考え、その後どういった場面（場所）で学ぶべきか具体的に考えていきました。

《地域の学び場が必要》

- ・学校では学べないことを学ぶ地域の学び場が必要
- ・いろんな子どもの居場所をつくる必要がある

《学校と地域の連携》

- ・学校教育と社会教育の連携ができていない
- ・いろんなことに参加しているのは意識の高い人、意識の低い人をどうやって参加してもらえるかが課題

《広報》

- ・ 広報がきちんとされていない
- ・ 生駒広報の子どもイベントの人が集まらない



《放課後子ども教室》

- ・ 放課後子ども教室を核とし、そこで学校教育だけでは学べない、子どものいろんな興味への入り口をつくる
- ・ PTA がつなぎ役となり、学校と地域が連携する

《人材バンク》

- ・ 地域の埋もれた人材を発掘、紹介する人材バンクをつくり、そこから放課後子ども教室に人を紹介する

《地域の学び場、大人の勉強》

- ・ 子どもだけではなく、大人も学べるような、広く地域の人たちが学べる場をつくる
- ・ 子どもは大人を見て学ぶので、大人がお手本を見せられるように大人の勉強会をする

私たちはどう関わっていくべきなのか？

《一人でも始める、行動する》

- ・ 一人でも始めて共感する人を集める
- ・ まずは自分の生活を大事にして、無理をせずにできる範囲でやる

《地域の人に声かけする》

- ・ 地域の人への声かけをする
- ・ まずはあいさつから始める

4 班のグループ討議の概要

● 生駒の未来予想～10年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか？～

- ・ まず、10年後や20年後の将来、生駒市はどうなっているのか考えました。

【到来が予測される課題や状況】

《仕事の変化》

- ・ さらに機会が生活の中に浸透していく
- ・ サラリーマン世帯が増えている（大阪のベッドタウン化の進行）
- ・ 地元の産業を継ぐ人口が減少している

《高齢化の進展》

- ・ 高齢の方が増えている（65歳以上の人口比率が徐々に触れている）

《人口の偏り》

- ・ 市内で人口の格差が生まれている（過疎地区が出来ている）

《新しい人が入ってくる》

- ・ 新しい住宅地が開発されている（人口が増えている）

《子育てをとりまく変化》

- ・子どもが外で遊ぶ場所がなくなる（なくなっている）

【望ましい10年後の生駒】

《30年後帰ってこられる生駒》

- ・大阪のベッドタウンとして生駒で育った人がリターンするまち

具体的には…

《子育てがし易い生駒》

- ・ゆっくりと子育てができるまち
- ・子どもと大人の関わりがうまく進んでいるまち
- ・お年寄りが見守るまち

《地域の力・町の人々の力を高めていこうとする生駒》

- ・子どもに体験を伝えられる（伝えられる知識がある人が住むまち）
- ・色々な体験ができる生駒
- ・歴史遺産の情報発信ができていくまち
- ・観光都市（外人さんがもっと多く住んでいるまち）
- ・奈良・生駒の魅力が伝えられる人
- ・生駒の文化や古き良き場所・物をつたえていく人が増えているまち

●生駒市民（いこまびと）を目指して、どう学び合えば良いのか、どう学ばせるか？

生駒市民（いこまびと）になるためにどういったことを学ぶ・身につけるべきか？

《仕事の仕方を学ぶことで得られるもの》

- ・まちの良さを伝えるちから
- ・コミュニケーションの仕方
- ・規範意識
- ・愛情（命の大切さ）

《暮らし方を学ぶことで得られるもの》

- ・普段できないこと・知る機会のないこと（地域の風習、他の家庭の子育て、田舎の暮らしなど）

どういった場面（場所）、どういった手段・方法で学ぶべきなのか？

《子どもが地域の仕事を学ぶ場》

- ・HRに職業体験（リタイア世代がプロ意識を持って教える）
- ・「脱・教室」：まちに出て、実際に活躍している人に触れる（地域のことを知れるプログラム）
- ・スクールボランティアの活躍できる場を広げる（シルバー世代が実力を発揮する場）

《大人も地域のことを学べる場》

- ・まちゼミの実施（大人の職業体験）

《暮らし方を学べる場》

- ・家ゼミの実施（他の市民の家に泊まり、暮らし方を知る）
- ・お年寄りの家にホームステイ（集落の暮らしや農作業を学ぶなど）

- ・ 修学旅行で民泊

《保護者が学べる場》

- ・ 体験を子ども達につたえていく立場として、他の家庭の子育てなどを知る機会を持つ

私たちはどう関わっていくべきなのか？

《学ぶ者と伝える者を繋げる》

- ・ 中間の世代である保護者世代が子どもとお年寄りとを会わせる機会をつくる
- ・ 子どもが遊べる場所をつくる

《それぞれが伝えることのできる立場であると自覚する》

- ・ 職業体験などでは、自信を持って自分の仕事を紹介できるようにする

5 グループ発表

各グループで話し合った内容を発表しました。

6 コーディネーターからのコメント

小柳先生から、参加者の意見に対して、コメントをいただきました。

「共同・協同・協働」や「自立・自律」ができる生駒市民が暮らすまちにするために皆さんに出して頂いた意見を整理してみました。

10年後の生駒についてですが、高齢化や国際化が進み、人口だけでなく、家庭や技術、農業なども変化し、コミュニケーションが減退しているという予想でしたが、「戻ってきたくなる生駒」を目指すという意見がありました。

このような前提の中、何が生駒市民に必要なのかを皆さんには考えて頂きました。出てきた意見を要素に分けると大きくは、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「関り方」の3つになります。

まず、「何を学ぶのか」ですが、“仕事・社会”“世界”“倫理・規範”“人の体験”“コミュニケーション”などが主だった意見でした。

そして、「どのようにして学ぶのか」ですが、“地域の教育力”“人材バンク”“活かしあう”“職業体験”“高齢者”などがキーワードになりそうです。

また最後に、「関り方」ですが、前提として参加・協働は大事なのですが、それを求めているだけではいけません。参加・協働が“し易い”ことが重要なのです。つまり敷居が高くなると実現性はなくなるということです。

このように、皆さんの意見を整理してみました。オブザーバーの上田先生にもお話を伺いたいと思います。

7 オブザーバーからのコメント

同志社女子大学の上田先生から、コメントをいただきました。

私は、生駒に生まれ、育ちました。一時期、神戸にも住んでいましたが生駒では長い時間を過ごしています。

今日、私はとても嬉しかったです。生駒のことを考えることは自分の未来を考えることです。しかし、普段生活しているとそんなことを話し合える機会はまだまだ多くありません。皆さんも楽しかったでしょう？

何れかのグループで、「戻って来たいまち」という意見が出ていましたが、スガシカオ氏の『progress』という歌はまさにそんな歌詞です。「ともに生きる」ことを歌ったものであったと記憶しています。

また、挨拶をすることは、とてもシンプルですが素敵なことだと思いました。皆が挨拶してくれる“変なまち”にして欲しいと思います。生駒に生まれ育った人は、挨拶するのが当たり前。他のまちでは、相手にしてもらえないかもしれませんが、生駒だけは大丈夫だと思えるようになればいいですね。

また、「失敗」という言葉はありません。これまでは、「成功」ばかりを追ってきた時代でした。しかし、プロトタイプをつくる場合、初めからものが動くことはありません。「今日考えて、明日直そう」という考え方が大事なのです。生駒のアーキテクチャとして、OSを根本から変えることが必要です。

何事も解釈の仕方が重要です。ガンを患った人は健常者より幸せを感じるホルモンであるオキシトシンが高まるというお話があります。ガン患者の方は、残された時間を大切に生きようとするのですね。このような解釈の転換を得るには、「交わること」が重要です。多くの人と触れ合うことで、多様な視点を得ることができるのです。

今日は本当に興奮しています。ありがとうございました。

8 閉会

閉会にあたり、小紫市長による挨拶がありました。

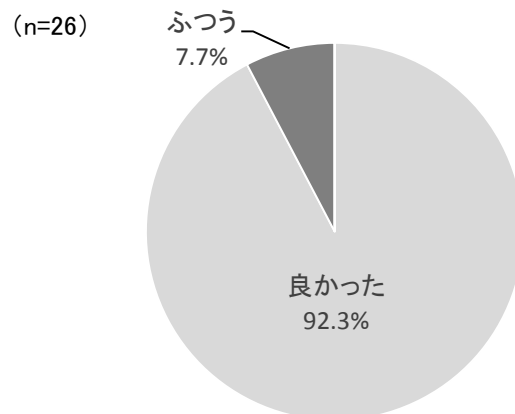
私も話し合いの中に入りたい、と思いながら皆さんのお話を聞いていました。教育の話をしながら、戻ってきたくなる地域づくりにまで話が広がって行っていました。自分でも思いも寄らないほどのエネルギーを皆さんからもらいました。教育を大事にしていきたいと思っていましたが、それは間違っていなかったと今日改めて思いました。

1月25日（月）に総合教育会議があり、小柳先生にもご出席いただき、皆さんにここで議論いただいた内容が発表されます。オープンな会議ですので、是非聞きにきていただきたいと思います。この話し合いが実際につながっていかないと意味がないと思いますので、皆さんの力を借りて取り組んでいきたいと思います。

このワークショップは今回が最後となりますが、ご参加いただき本当にありがとうございました。

ふりかえりシート

ワークショップ終了後、参加者の皆さんにふり返りシートを記入いただきました。



◇他の人の発言の中で心に残った事があればお書きください。

- ・「生駒は10年後もそんなに変わってないと思いますよ。」「このままの生駒なら人が集まってくる」、というような意見があり少し驚いた。
- ・戻ってきたい生駒、家ゼミ
- ・今と未来は同じ、失敗やまちがいという言葉はない。
- ・多くの人とつながってきたい。
- ・自分でやっていく、大人も、という意識がハッとしました。ついついまかせてしまうので。
- ・生駒にいるかぎり生活に心配はない、ひとりじゃない、そんな生駒になってほしいと思いました。
- ・異文化との交流。コミュニケーション力。未来に輝く(先見性)。子どもとの交流
- ・異文化にふれる機会を多く持つこと。そのためには海外で学ぶ子を増やすことと、進歩的な考えにうれしかった。10年後の生駒市を考える機会を持つことができ良かった。
- ・また戻ってきたくなる生駒。家ゼミ。
- ・生駒の教育水準の高さが常に高いということがわかりました。異世代の人の考えがすごく心に残った。
- ・IT教育をもっと強調してほしい。
- ・家庭教育、本を読んでほしい、30年後生駒に戻ってきたい。
- ・脱教室
- ・し易い、家ゼミ
- ・生駒に戻ってきたくなるような街づくりという言葉が印象に残りました。「まちづくりとは人づくり」とはこういうことだと感じました。
- ・前回同様、いろいろな世代、立場の人からの生の声を聞くことができ良かったですし、このような機会を設けていただいた生駒市に感謝しています。
- ・戻ってきたくなる生駒
- ・「あいさつ」につきます。誰とでもあいさつをしている明るい生駒。
- ・「あいさつ+一言」これが教育の基本。子どもは大人のそういった姿を見て育つ。

- ・もどって来なくなる生駒。
- ・間違うことが恥ずかしい、ダメという考えが日本人にはある。海外では席が前から埋まるとか、日本の教育を大きく改革しなければいけないと思った。また、広報を見ている人というのは生駒について関心があるし、そのような人を大切にしつつ広げていきたいと思った。
- ・「戻ってきたい生駒」はとてもいい考えだと思いました。
- ・生駒に戻ってくる町！！私も生駒でずーっと生きてきて、結婚もして生駒に住みたくダンナさんを説得しました。他にも一緒に想いをもっておられる方がいてうれしかったです。
- ・戻ってきたくなくなる生駒がすてきでした。

◇これからの生活のなかで心がけようと思った事などがあればお書きください。

- ・生駒の伝統・文化をもっと深く知り、発進できる事の手助けができる機会があれば参加したい。伝統産業・新しい産業（ICTも含め）人が集まる生駒に自分なりに貢献できればと思う。
- ・地域活動（貢献活動）にさらに力を入れていきたいと思いました。子どもは未来社会の宝物です（あらためて実感しました）
- ・積極的に地域に関わっていこうという思いが強まりました。また、自分自身も自ら行動し、輝く生駒民であろうという思いが強まりました。
- ・自分から一歩進もう、現在活動していることをよろこんで、また、続けられるように取り組みたいと思いました。
- ・自分も子どももどんだんいろんな活動に参加していきたいと思います。
- ・今の自分に何ができるか。できる事はないか考えていきたい。
- ・いまだけでなく「10年後」を意識して生活することも大切ですね。「私の中に【失敗】というカテゴリーはない！」を信じたいです。
- ・時代の変化を積極的に受け入れ、しなやかに順応できるよう頭をやわらかくしておくように心がけたい。
- ・失敗ということばは使わない。チャレンジすることで解決する。
- ・あいさつをする。好奇心を絶やさない。
- ・このような地域で行われる様な活動に参加していきたい。
- ・高齢社会でさらに10年後はお役に立てるよう努力していきます。
- ・地域の中で自分お力を生かしていきたい。
- ・もっと他の団体、地域の方と話ができればと思いました。
- ・地域でのあいさつ活動など自分ができることから。
- ・自分自身も人として地域で子どもの成長を見守ろうと思いました。
- ・10～30年、その後の未来のまち生駒を意識することは今まであまりありませんでしたが、今回・のワークショップを参加させていただいたお陰で、未来を考えて人との関わり、町の盛り上げを行動にうつしていこうと思いました。
- ・地域の活動に積極的に参加しようと思います。
- ・「あいさつ+一言」。あいさつだけは心がけていましたが、一言を加えることでよりキョリが近づくと考えたからです。

- ・大きな声であいさつ出来る人間になりたいと思います。大人が声をかけてあげる。
- ・やはり教育に関心を持っている人達はこのようなワークショップに参加して意見を言える。しかし現状として授業参観に来ない親、あいさつしない親、PTAに消極的な親など多数いる。この様な親に私は教育者として開かれた学校づくりに貢献していきたいと改めて感じた。
- ・10年後の事を考えて今できることをやっつけていこうと思いました。
- ・あいさつ規律に重きを置いて子育てにはげみたいです。
- ・コミュニケーションをもっととる。

◇自由意見（今回のワークショップに参加しての感想など）

- ・本ワークショップの企画は大変楽しく有意義でした。ぜひ、全市民や他自治体あてに発信して欲しいと思います。ありがとうございました。（次回こうした企画があれば参加したいです）
- ・最初は学生で、教育のプロでもない自分が参加して役に立てるのだからと不安でいっぱいでしたが、実際参加して本当によかったです。生駒人が生駒を愛していることを肌で感じ、自分の生駒愛も再確認することができました。これからもこのような機会があれば積極的に参加したいです。
- ・今回参加された方は熱意があるかたで一般の方に少しでも浸透できるようになればよいと思います。又、努力したいです。ありがとうございました。
- ・たくさんの人と意思を出し合うことができ、とても楽しく心があたたかくなりました。また、このような機会に参加できるといいなと思います。ありがとうございました。
- ・人口推計の表をすぐに出してくれた対応の素早さに感謝します。
- ・色々な世代のメンバーで話し合えたことが良かったです。又、地域によって課題がちがったりするので様々な意見が聞けて良かったです。
- ・参加メンバー（年代の異なる）と生駒のことを考えるいいチャンスになりました。仲間と新しい時代への変化を楽しみにしたいと思います。
- ・生駒を愛する気持ちにあふれていて良かった。
- ・とても有意義な時間でした。普段の生活では関われない人たちとの議論で様々な価値観と触れられて自分の糧となりました。
- ・楽しかった。この様な機会を与えて頂いてありがとうございました。異世代の方とお話ができ様々な考えを得ることができました。
- ・もっと大学の先生方のおはなしを聞きたかったです。ありがとうございました。
- ・個人の意見を少しおいて、他の方との意見を集約していったのがおもしろかった。他の方の意見も生駒は同じところを向いていたと分かり全体で考えていけると思いました。
- ・興味深いことがたくさんあり考えさせてもらえるいい機会だと思いました。
- ・教育学部でもないし、教育に対して無知でしたが、生駒という自分の住む町について真剣に考える機会が楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ワークショップの中で出てきた子ども向けの町ゼミ・スクールボランティアのさらなる活用は是非実施してほしいです。
- ・当初は参加するにあたり不安でしたがとても意義あるワークショップでした。また、機会があれば参加したいと思います。

- 他の方の教育観が聴けたらと思い参加しました。教育観にとどまらず生駒のこと、生き方など学ぶことの多い充実したひとときでした。ありがとうございました。
- 10年後国際生駒に成長していく事を期待します。大好きな生駒です。有り難うございました。様々な年齢の方と話ができてよかった。こう言う機会をこれからもたくさん設けてほしいと思った。
- たくさんの意見を聞くことが出来、とても勉強になりました。これからの生駒市に期待しています。
- 多くの方の活発なご意見をうかがえて、頭のやわらかさに感動しました。メンバーのすみに入れて頂いて良かったです。上田先生の熱いトークで夢が広がりました。